

新年のあいさつ

岡本市長に昨年の振り返りと今後の取り組みについて聞きました。

コロナ禍でのにぎわい再生

令和4年もやはりコロナに明け、コロナに暮れた一年でした。収まるかと思えて、また振り返り、年末には第8波と言われるような感染者数になりました。ただ、ワクチン接種が進んだこともあり、重症化する人や亡くなる人が大変少なくなりました。これから治療薬ができてきたら、コロナ禍の時代と決別できるかなと期待しています。

3年ぶりのダンジリ行事

10月には、上野天神祭の鬼行列・だんじり巡行が3年ぶりにほぼ通常どおり行われました。やはりこの2年間のロスタイムは大きかったと思います。例えば、だんじりを引っ張る



脱・染・もり時代

また11月に3年ぶりの開催となったNINJAフェスタin上野恩賜公園では、皆さんに大変喜んでいただき、こうした催しの大切さを実感できました。これからも皆さんと共に新型コロナウイルスの感染拡大防止に気を配りながら、今年こそはコロナ禍の染・もり時代と決別し、地域経済や市民生活を以前のような段階に近づけていきたいと思えます。

るときのテコの入れ方や、お囃子など、文化的な物事を伝承し、つなげていくことの大変さを実感しました。

ちょうどお囃子を担当する年齢の子どもたちは、実際の祭で演奏ができませんいま2年が経ってしまいました。伝統文化の継承をはじめ、どんなことも「続けていく」ということの大切さを認識しました。



地域活性化への取り組み

昨年は、にぎわい忍者回廊事業の本契約を締結し、いよいよ動き出しました。大阪関西万博に向けて誘客を図るため、忍者体験施設を整備します。また、市指定文化財である旧上野市庁舎を新しい形の図書館に整備し、新しく皆さんが集える場所、さまざまな知識が得られる場所にしていきますので、ぜひ楽しみにしていただきたいと思います。

そして公共交通についても、6月にJR西日本と関係自治体との間で関西本線活性化利用促進三重県会議が設置され、JR関西本線の活性化について提案させていただけたことは大きな進歩だと思っています。



関西本線活性化利用促進三重県会議（6月27日）

子どもは地域の宝

これまで中学生以下の医療費の無償化や、第3子以降の保育料の無償化などを進めてきました。今後は食育にも力を入れて、子どもの貧困を巡る問題などに取り組んでいきます。

また、小・中学校ではタブレット端末を使った学習が進んでいます。便利なデジタル社会の中であっても、自分の中だけで完結するのではなく、周りの人や周辺地域との関わりの中で学ぶことが大切だと思えますので、そういった取り組みも進めていきたいと思えます。



皆さんへメッセージ

これからの時代は激動の時代になると思えます。その中で一番大事なことは、周囲の情勢や環境が変わり続ける中で、いかに自ら参画して、みんなで成果を得られるようにするかということだと思います。市政やさまざまな事業、住民自治など、何事においても自らが主体となって参画していくことが大切になります。

昨年生誕100年を迎えた伊賀市出身の画家・元永定正さんが口癖のように語っていた言葉が「一寸先は光です。私たち一人ひとりが頑張った先に明るい光が見えてきます。みんなが頑張り、みんなが地域をつくる時代の幕開けです。」



伊賀市役所

IGA CITY GOVERNMENT
CITY COUNCIL

新年あけましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願ひいたします

